

各地のたより

豊かな土をつくる

(土壌生物観察と
土壌浸透実験)

〈ふれあいセンター〉



十一月一日、松野町立松野西小学校の四年生二十八名を対象に、今年度六回目の森林教室を開催しました。今回のテーマは、「①土壌を観察して生き物を探し出し、その存在と役割に気づくこと。②模型を使った水の土壌浸透実験を通して、森林土壌の仕組みを学習する。」です。

土壌の観察では、虫眼鏡で発見した生物を、マイクロスコップを使ってスクリーンへ大きく映し出しました。ミミズの幼生は腸の中の土まで映し出され、土を食べていることが理解できました。このミミズが糞をすることにより、豊かな土

がつくられる事を説明すると、児童達は納得した様子でした。

水の土壌浸透実験では、裸山と樹木が生い茂った山の模型を作り、じょうろで水をかけました。裸山はすぐに崩れ始めましたが、樹木のある山は、ゆっくりと水が流れていく様子がわかり、森林の土砂流出を防ぐ働きが理解できました。

今回の学習で年間予定の六回が終了しました。同校では三学期に、これまでの学習を取りまとめた「わくわく発表会」を行うそうです。



森林の土壌はすごい

「綺麗な音色」

炭焼き体験

―木工クラフト

〈ふれあいセンター〉



二月七日、松野町立松野南小学校全校児童を対象に、身近な材料を使つての炭焼き体験と木工クラフト作りの出前授業を行いました。

始めに、炭の種類や利用法などを説明した後、白炭と黒炭を使つた実験をしました。ノコギリを使つての

切断では、黒炭は簡単に切れたのに、白炭は全員で切ろうしましたが、堅くて切断することはできませんでした。また、白炭を木の棒でたたくと「チンチン」と鉄琴のような綺麗な音色がして児童や先生は驚いていました。

続いて炭焼き体験になりました。児童達は、職員から手順や注意点を聞き、早速、もみ殻とともに各自が

持参したマツボックリやドングリ、折り鶴などを小型のブリキ缶に詰めていきま

した。そして、ドラム缶のたき火の中へ放り込み、焼き上がるまで木工クラフトを行いました。木工クラフトでは、予め当センターが用意していた木の枝輪切りを利用したクマのストラップとクマの置物を作りました。

炭焼きを開始して約四十分が経過した頃、缶を取り出し、ふたを開ける時は、少し心配そうでしたが、炭になっていたのでひと安心。折り鶴や紙飛行機もちゃんと炭になっていました。

児童からは、「白炭と黒炭の性質の違いがよくわかった」「ストラップや置物が思ったより上手くできてよかった」等の感想があり、身近にある材料を使つた炭づくりや木の枝のクラフト作りを通して、森林や木材への

の関心・興味に繋がる教室となりました。

この日は地元テレビ局の取材があり、夕方のニュースの中で紹介されました。



白炭は硬い

初冬の八面山へ

〈ふれあいセンター〉



紅葉も終わり、冬の装いに変わり始めた八面山へ宇和島自然科学教室の児童一四名と四万十市立具同小学校五年生の児童九四名が訪れました。

宇和島自然科学教室は、宇和島市周辺の学校の理科が好きな教師が集まり、小

学生を対象に休日などに野外観察会などを行っており、今年で五〇周年となることから、その記念行事として八面山への登山と黒尊山での植樹を行いました。

一月二七日、少し肌寒いものの、晴天の登山道を職員から周辺の樹木の説明を聞きながら約一時間かけて八面山山頂に登り、そこから続くブナ林に到着しました。

葉を落としたブナ林は太陽の光が差し、とても明るく、その中で、ロープで作ったブランコや、林床に積もったブナの葉の中に埋もれてみたりして元気に遊びました。

黒尊山の当センターが自然再生事業を行っている林地では、職員からニホンジカによる被害の説明を受けた後、イロハモミジの苗木二〇本を植え、シカの被害から守るために植生保護管

も取り付けました。

日常では経験することの少ないブナ林での散策や、山の斜面での作業は、児童にとつて、さらに自然や森林への興味を深めたのではないのでしょうか。



ニホンジカに食べられないように

一方、具同小学校の五年生が訪れた一二月三日は、前日からの雨が上がり、平地は快晴で、意気揚々と黒尊川沿いの県道をバスで登山口に向かいましたが、標高千メートル付近は濃い霧と強風に加え、小雨と初冬の寒さであり登山向きといえる天候ではありませんでした。

雨と霧は一時的なものと判断し、天候の回復を待ったため、急遽、バスの中で「森・川・海」の森林教室となり、予定から一時間遅れての登山となりました。

幸い、雨はやみ、霧は晴れたものの、風はなお強く寒さを一層厳しいものにし、児童には少々つらい登山となりましたが、職員の樹木解説を聞き、ガマズミの赤い実を頬張ったりしながら元気に登りました。

約一時間で山頂に着きましたが、時間の都合でブナ林の散策はできず、残念ながらそのまま下山することになりました。

下山する頃になると、天候も回復し、眼下に宇和海を望むこともできました。

森林の恵みばかりでなく、自然の厳しさも体験することになりましたが、児童の記憶にはより強く残ったものと思います。

「源平屋島の森」で
ボランティア作業
〈香川森林管理事務所〉



一月二八日、屋島国有林の「源平屋島の森」において、平成二二年度「源平屋島の森」森林ボランティア作業が行われ、約一二〇名が参加しました。

このボランティア作業は、地元自治会、屋島東小学校、ボランティア団体等の協力を得て、毎年三回行われているもので、今回は二回目の実施になります。

今回のボランティア作業は、毎行っている下草刈りの外に、ウメの移植も行いました。これは、「ウメの生長に伴い、密度が高くなつた箇所を何とかできないか」という地元の方の意見をもとに行つたもので、あらかじめ根切りしておいた二株を移植しました。また、

同時に行つた下草刈りによつて、森全体がすっきりしました。

作業が終わつた後、地元の方々からは、「何かあつたらいつでも声をかけてくれな」という頼もしい言葉をいただきました。また、小学生は、「カマキリがおつたよ!」とカマキリを見せてくれました。

定期的に行っているこのボランティア活動によって、地域の方々や小学生たちは、身近な自然である「源平屋島の森」に特別な愛着を感じているようです。



ウメの移植

学校林で
森林環境学習
〈香川森林管理事務所〉



一二月一日、観音寺市立大野原小学校の学校林（分収造林・萩ノ尾国有林）において、森林環境学習が行われ、六年生九四名が参加しました。

この学校林は、一九五三年に廃校となった旧五郷小学校の児童によってヒノキとスギが植えられたものです。

はじめに、地元ボランティアの方々や香川森林管理事務所職員から、学校林の歴史や間伐の大切さ、林業に必要な道具の説明を受けて学校林に足を踏み入れました。

児童たちは、先輩たちが植え、育てた林の中で、枝打ちや間伐を見学し、普段あまり見かけない作業に

見入っていました。

森林は、二世代、三世代と受け継がれていくものです。今回の森林環境学習を通じて、先輩たちの育ててきた森林の目に見えない価値や大切さを実感できたのではないかと考えています。



学校林の歴史の説明



遊々の森で
鳥の巣箱かけ
〈高知中部森林管理署〉



一月一六日、当署管内ヒカリ石国有林内に設定している遊々の森で、香美市立大柵小学校五年生一名が鳥の巣箱かけを行いました。

この巣箱は今年七月に地域の国有林について理解を深めるために行った森林教室で作製したものです。

当日は秋晴れで、現地に着くまでのバスから美しい紅葉を楽しめました。巣箱の取り付けにかかると、生徒達は、急な斜面に足を取られながらも「鳥が入りますように」と願いを込め、サクラの木にしつかりと固定していました。

巣箱をかけた後は、自然の中にあるものを見つけ

るフィールドビンゴゲームを行いました。生徒達は制限時間いっぱい走り回り、項目にあがっているキノコやカズラ、コケなどを我先にと探し出し、いくつかのビンゴを完成させていました。

最後に真っ赤に色づいたカエデの前で写真撮影をして現地をあとにしました。



巣箱かけをした児童



シリーズ「現場第一線」から

四万十森林管理署

楠山森林事務所

首席森林官 北村 啓明

楠山森林事務所は、四国の西南端に位置し、温暖な気候と、山、川、海の豊かな自然に囲まれ、沖の島、柏島周辺は磯釣りに適した場所も多い。また、釣り人だけのあこがれの釣り場だけでなく、海は透明度も高く、珊瑚や熱帯魚が豊富に見られ、全国有数のダイビングスポットとなっている。交通の面では、九州へのフェリー航路や土佐くろしお鉄道終点の宿毛駅があります。



アケボノツツジ

当事務所の管理面積は、国有林三、五八六畝、官行造林三四五畝で、計三、九三一畝です。管内の国有林の特徴としては、一つには、ミヤコザサとアケボノツツジの群落、ハリモミ、ヒノキ等の巨樹白骨林が点在し、四国西南部の原生林的景観残している篠山風景林があります。

この篠山は、日本三百名山の一つで山頂には、二等三角点が設置されています。かつては社領地であったとされ、篠山神社は飛鳥時代に用明天皇の勅願所がおかれていたと言われます。年間を通して登山者が訪れます。ゴールデンウィークが間近になると、宿毛市、宿毛市教育委員会主催の篠山の清掃があり、毎年一〇〇名を超すボランティアが参加しています。また、二年ほど前より大月町内の小学生を招いて、森林教室を実施しています。二つ目には、ヒノキ、モミ、ヒメシヤラ、カエ



篠山での森林教室

デ等を交えた針広混交の天然林、中森奥藤自然観察教育林です。この、自然観察教育林は、地元の宿毛市立橋上中学校の森林環境教育の場としても利用され、また、隣接して、松田川風景林もあり、この風景林には篠平キャンプ場があり、毎年七月にキャンプ場開きが実施され、多くの方々に利用されています。関係機関との会議等への参加としては、七月に宿毛警察署管内沿岸協力

会、六月から七月中旬に蛸湖まつり実行委員会（中筋川総合開発工事事務所主催）、一月から二月に宿毛市木材需要拡大推進協議会（会長 四万十森林管理署長）、三月下旬に宿毛市桜の里推進協議会など各種会議等に参加しています。

当森林事務所の主な事業としては、造林事業（ニホンジカ防護ネット修理、下刈りから保育間伐）、林道維持管理、立木販売、境界巡検、林野巡視等があります。

また、首席森林官として、署の窓口的業務、若手職員の人材育成と大きな使命があり、定年まで残り少ない国有林の職務をまっとうしていきたいと思っています。